

現代教師の性差別生活意識

——東京都内公立小学校の場合——

東邦大学医学部 田中 義章

調査研究の目的

今日、わが国の初等教育界は、「女教師の時代」と言われるように、毎年女性教師が増加し、半数以上を占めている。

この事実に対して、さまざまの議論がなされ、女性教師に対していろいろな評価がなされているが、男性教師との生活意識の面において、いかなる差異が存在するのかを、調査結果に基づいて、下記の点に関して比較検討する。(なお、性差別職業意識は、第54回日本社会学会(昭和56年10月上旬)にて発表予定)

- ① 生活信条
- ② 配偶者選択問題
- ③ 帰属階層意識
- ④ 支持政党
- ⑤ 教職以外の社会的活動状況

以上の諸点が、性差別教師の長所・短所を究明し、今日の教師像の再検討を行うのが今回の発表の目的である。

調査実施要項

① 調査地選定理由

日本の首都であり、都道府県別において男・女・共教師数最高である。

② 財源

女性調査 = 昭和53年度文部省科研費
一般研究(D)

男性調査 = 昭和53年東邦大学額田奨学金
昭和55年東邦大学社会学研究室
研究費

③ 日時

女性教師 = 昭和54年1月下旬

男性教師 = 昭和55年11月下旬

④ 母集団

女性教師 = 昭和54年東京都内公立小学校教員総数
36523名のうち女性教師は22271名
(産休教員等除く) 54・1・10現在

男性教師 = 昭和55年東京都内公立小学校教員総数
37451名のうち男性教師14584名 55・5・1現在

⑤ 抽出台帳

女性教師 = 東京都教職員組合・東京都高等学校
教職員組合共編『東京都立学校教職員
名簿』—1978年版—

男性教師 = 同上書—1980年版—

⑥ 抽出方式

男・女性教師共 = 年齢層別・地区別比例配分
そのほか無作為抽出法による。

⑦ サンプル

女性教師 = 計画2000
回収数565 回収率28.3%
男性教師 = 計画1000
回収数295 回収率29.5%

⑧ 調査方法 = 男・女共 郵送法